



## 全国学力・学習状況調査（教科に関する調査結果について）

5月に実施された6年生を対象にした「全国学力・学習状況調査」の結果です。この調査は、児童の学力や生活習慣等を把握するとともに、それらを踏まえて学習指導の改善・充実につなげることを目的として毎年実施されています。

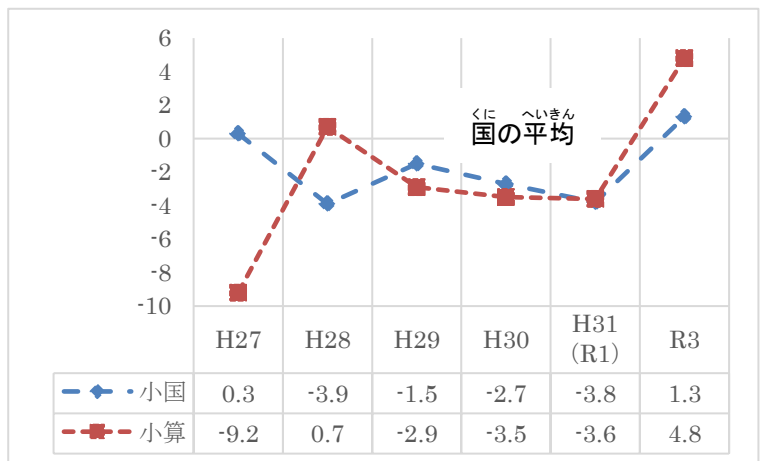
### ■■調査結果の概要■■

#### 1 教科に関する調査について（平均正答率）

	ほんこう 本校	みえけん 三重県	ぜんこく 全国
こくご 国語	66	64	64.7
さんすう 算数	75	69	70.2

国語・算数ともに県や国の正答率を上回りました。しかし、子どもたちの間では学力の差が大きくなっています。引き続き学校での授業や家庭学習を通して、これからの時代を生きる子どもたちにとって必要となる力を育てていきたいと思います。

けいねんへんか ぜんこくとのさ  
経年変化（全国との差）



※令和2年度は任意実施により全国のデータがありませんでした。

(1) 算数～速さと道のりの関係、面積の求め方など基本的な内容は理解できています～

◆ 問題を読み取って正しく式が立てられますか。

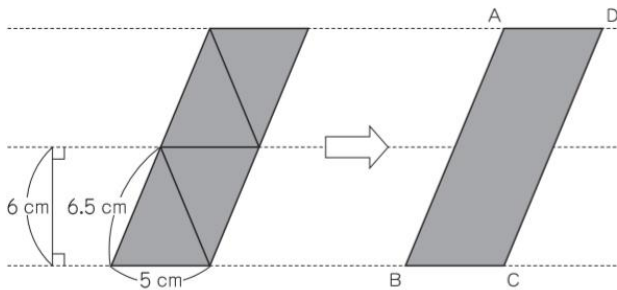
8人に4Lのジュースを等しく分けます。1人分は何Lですか。  
求める式と答えを書きましょう。

【正答】式：4÷8 答え：0.5L

問題文自体は大変短く、数字も一桁で一見簡単そうに見えるのですが、割られる数と割る数を正しく判断しないと式が立てられません。問題をよく読まずに数字の大小に惑わされ、つい8÷4としてしまう解答が半数近い児童に見られました。

◆ 求められている内容を言葉や式で記述できますか。

二等辺三角形を4つ使い、次のように同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形ABCDをつくりました。辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましよう。そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのかわかるようにしましよう。また、平行四辺形ABCDの面積が何cm<sup>2</sup>になるのかも書きましよう。



【正答例】

辺BCを底辺としたとき、高さは  $6 \times 2 = 12$  で 12cmです。平行四辺形ABCDの面積は  $5 \times 12 = 60$  で、60cm<sup>2</sup>です。  
 平行四辺形の面積 60cm<sup>2</sup>

平行四辺形の面積を求める公式を用いるための情報が直接図には書かれていません。そこで、公式を使うために、高さをどのように求めるのかという記述が必要になります。面積はわかっている言葉では説明できない、または説明が不十分で「高さ」の求め方が書いていないという答えが見られました。その他の問題でも同様の傾向が見られました。授業でも言葉と式で説明させる場面を設けることで、力をつけさせたいと考えています。

(2) 国語～選択肢の中から正しい答えを見つけることはできています～

◆ 条件に合わせて書くことができますか。

面ファスナーは国際宇宙ステーションの中でどのように使われていますか。次の条件に合わせて書きましよう。

① 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中での使われ方について書くこと。

② 【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。

③ 五十字以上、七十字以内にまとめて書くこと。

(資料は省略)

資料から、中心となる言葉や文を見つけて、それらをまとめる力が必要です。3つの条件がありますが、条件①は「よさ」と「使われ方」の2つを書かなければなりません。本校の半数以上の児童は、①の条件のうちどちらかしか書いていませんでした。算数の問題と同様に、「条件に合わせて書くこと」に取り組んでいく必要があることがわかりました。

## 2 児童質問紙調査について

児童質問紙は、児童の生活や学習の様子をアンケート形式で問う調査です。69項目の質問がありました。特に、本校の「強み」や「弱み」となっている項目は次の通りです。

### (1) 全国と比較してポイントが高い項目（強み）

質問項目	本校	全国	差
今住んでいる地域の行事に参加していますか	73.2	58.1	+15.1
自分には、よいところがあると思いますか	78.8	76.9	+1.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.6	96.8	+1.8
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	84.5	81.2	+3.3

前回（令和元年度）と同様、地域の行事によく参加している子どもたちの割合は非常に高い結果となっています。地域の皆様が多く行事を開催してくださり、地域で子どもたちの体験が確保されていることがよく表れた結果と考えます。また、「自分にはよいところがある」とする児童の割合は前は全国より低かったのですが、今回はわずかではあるものの上回りました。



### (2) 全国と比較してポイントが低い項目（弱み）

質問項目	本校	全国	差
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか→1時間以上の割合	46.5	62.5	-16
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）→10分未満の割合	50.7	38.7	12
自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか	59.1	70.3	-11.2
学校に行くのは楽しいと思いますか	71.8	83.4	-11.6

弱みとして挙げた項目は、前回と同じものが多かったです。特に、平日1時間以上勉強している子どもの割合は前回約6割だったものが、今回は5割に満たない結果となっていて差が広がっている状況です。また、「自分の思っていることを言葉で表す」ことにも苦手意識をもっている児童が4割にのぼっています。似たような質問でも同様に低い結果となっていました。

### 3 改善に向けた取組について

ご家庭のご協力、子どもたちのがんばりの結果、学力については改善が見られました。しかしながら、質問紙調査と合わせてみると課題もあります。子どもたちがさらに学力をつけ、心身ともに健やかに成長できるよう、次のような取組を進めていきたいと考えています。

#### (1) 「考えることが楽しい」と感じられる授業づくり

本校では考えることを楽しめるような授業、自分の考えを伝え合い、学び合える授業をめざして研究を進めてきました。ペアやグループで互いの考えを出し合ったり、みんなの前で自分の考えていることを説明したりするような場面を多く設けることで「いろいろな考えの違いがあっておもしろいな」とか、「新たな発見に出会えてよかったな」と子どもたちが感じられるような授業づくりに努めています。また、1人1台端末の効果的な活用も図ります。学校生活の大半は授業です。「学校が楽しい」「学ぶことが楽しい」と子どもたちが思えるような授業づくりに取り組んでいきます。



#### (2) 家庭学習の習慣

学習内容を定着させるためには、授業だけではなく家庭での復習が欠かせません。学年が上がるにつれ内容も難しくなります。繰り返し勉強することがとても大切になります。学年によって必要な時間に違いはありますが、毎日机に向かい復習する習慣をつけてほしいと思います。4月に配付しました「家庭学習のてびき」も参考にいただき、子どもたちがどんな勉強をしているか、時々確認していただくと幸いです。

#### (3) 読書に親しむ

言葉で説明することが苦手な児童には語彙を増やすことも必要です。読書によって語彙力を高め幅広い知識を身につけることができます。豊かな感性や情緒を育むこともできます。読書はまさに全ての学力の基礎と言えます。学校でも巡回指導員さんやボランティアの方のご協力により、魅力ある図書館づくり、ブックトークや読み聞かせなど、子どもたちが本に触れ興味をもてるような取組を進めています。ぜひ、ご家庭でもお子さんが本に向かう機会をつくっていただければと思います。